

京都中央病院リハビリテーション科で診療を受けられる皆様へ

診療データの研究利用のお知らせ

当院では、本院病院長の許可のもと以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

①研究課題名	受傷前屋内生活が保たれていた大腿骨近位部骨折術後患者における移乗動作自立獲得の予測因子の検討		
②実施予定期間	倫理審査委員会承認後 から 2022年3月31日		
③対象患者	④の対象期間中に当院で整形外科治療後にリハビリテーションを受けられた患者さん		
④対象期間	倫理審査委員会承認後 から 2022年3月31日		
⑤研究機関の名称	京都民医連中央病院		
⑥対象診療科	リハビリテーション療法課		
⑦研究責任者	氏名	川合 功剛	所属 リハビリテーション療法課
⑧使用する試料・情報等	<p>下記の情報を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 被検者背景：年齢，性別，BMI，受傷前の障害高齢者の日常生活自立度，入院前の生活環境，術式，明かな運動麻痺の有無，骨折歴の有無 ● 術後検査データ：Hb，CRP，BUN/Cr ● 身体機能：術後3日目と術後7日目と術後14日目のBMS（各項目得点と総得点），術後21日目の移乗自立の可否，術後21日目の握力，認知機能低下の有無（術後HDS-R21点以上で認知機能低下無し） ● 経過日数：入院日から手術までの日数，手術日から離床までの日数，病棟移乗動作自立までの日数（移乗自立者のみ） 		
⑨研究の概要	<p>大腿骨近位部骨折は全身状態が許せばほとんどの場合，人工骨頭挿入術や骨接合術などによる手術療法が選択され，その後リハビリテーション介入が必要となる。術後の機能的予後については，歩行能力の再獲得を中心にいくつかの報告がなされているが，対象は受傷前に一定の歩行能力を有していた者としていることが多く，受傷前より歩行困難者や，屋内歩行は可能でも屋外歩行が困難であった患者についての予後予測に関する報告は少ない現状がある。</p> <p>歩行自立獲得困難が予測される患者やその家族は，在宅復帰の条件として最低限bed sideでの排泄動作の自立を希望される場合が多く，そのためには移乗動作の自立が必要となるため，移乗動作自立の獲得は在宅復帰を目指すにおいても重要課題であるといえる。早期に移乗動作自立獲得を予測可能であれば，継ぎ目なく退院支援を行うことができるため臨床上的意義があると考えます。</p> <p>本研究の目的は，受傷前屋内生活が保たれていた大腿骨近位部骨折術後</p>		

	患者の術後3週での移乗動作自立に関する因子を検討することである。上述の⑧の情報をを用いて術後3週での移乗動作自立の可否を予測する因子を明かにすることで、継ぎ目がなく退院支援を行うことができる考える。		
⑩倫理審査	倫理審査委員会承認日	2021年 3月 5日	
⑪研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑫結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭知的財産権	京都民医連中央病院に帰属します。		
⑮研究の資金源	ありません。		
⑯利益相反	ありません。		
⑰問い合わせ先・相談窓口	京都民医連中央病院 リハビリテーション療法課 担当者：川合 功剛		
	電話	075-861-2220	FAX